

## 都市系食品バイオマスの資源化・リサイクル促進戦略

## 1 中核機関・研究総括者

埼玉県農林総合研究センター 日高 伸

## 2 研究期間

2005～2008（4年間）

## 3 研究目的

食品リサイクル法が施行され食品系廃棄物の資源化・リサイクルの促進が緊急の課題となっている。従来のコンポストの製造・利用から脱却して、徹底した分別収集により、利用目的に即したコンポスト化、飼料化・肥料化転換技術を開発する。収集、製造、流通のキーとなるビジネスモデルを実証し、これらを総合化した地域リサイクルシステムを確立する。

## 4 研究内容及び実施体制

- ① 食品系廃棄物を組み合わせた飼料化・作物別コンポストの開発と品質基準化（埼玉県農林総合研究センター、神奈川県農業技術センター、(株)朝日工業）  
食品廃棄物の栄養成分や機能成分を活用した飼料化技術、作物に応じた最適な融合コンポストの製造と利用技術を開発する。
- ② 食品系廃棄物の全量資源化を前提とした分別・保管・収集・製造の部門別技術と流通システムの構築（(株)アイル・クリーンテック、(株)朝日工業、埼玉県農林総合研究センター）  
利用目的に応じて、分別収集、運搬・製造時の品質管理、製品の基準化を行い生産と流通システムを確立する。
- ③ リサイクル部門別エコビジネスの創設と地域モデルの開発（埼玉大学）  
リサイクル部門別にビジネス創設の可能性と問題点を明らかにする。地域モデルを現地で実践し地域利用システムを開発する。
- ④ 再資源化商品を教材に活用した体験学習の実践と環境教育法の開発及び普及（埼玉大学）  
小・中・高校生及び大学生を対象に栽培活動への利用を通じて発達段階に即した体験的な環境教育の教材及び教育方法を開発する。
- ⑤ 都市系バイオマスの資源化促進の効果とその戦略(東京大学)  
形成される循環型社会のCO<sub>2</sub>発生量をLCAで評価する。リサイクル製品の需給が合致し、地球温暖化防止のために環境負荷の小さい立地戦略の確立を行う。

## 5 目標とする成果

従来の一律に生産されてきたコンポスト利用技術の開発から脱却して、食品系バイオマス等、有機性廃棄物の積極的な活用と徹底した分別収集により、農業生産や家畜飼養の利用形態・利用目的に即した製品の基準化、融合コンポスト等、新しい製造技術が開発される。これにより、各分野で新たなエコ・ビジネスの創設、再生資化製品の安全な農業利用技術と定着化、環境負荷の少ない地域リサイクル社会の実現(低CO<sub>2</sub>型社会)、長期的側面から環境教育法の開発と普及が期待される。

# 都市系食品バイオマスの資源化促進戦略

(5) バイオマスの資源化促進の効果と戦略(低CO2型社会の評価)

